

## ＜誕生会を考える＞

今回のひまわり5号は、誕生会について書いてみようと思います。12日に5月の誕生会を行いました。5月は11名のお友達の誕生日祝でした。誕生月の子ども達は、園児と保護者に見守られ、とても嬉しい表情をしていました。給食には、誕生日メニューも準備され、園内がお祝いムードになります。子ども達の誕生を祝ってやることは、大切な自分であることを、体いっぱい感じられるのだと実感しています。



## ＜子どもにとっての誕生日＞

誕生月の子ども達の表情を見ていると、舞台上で紹介される恥ずかしさもありながら、なんだか誇らしげな表情に見えます。もちろん家族が来園されて見て下さっていることありますが、自分を祝ってもらっているという気持ちが大いだと思います。

子ども達にとっての誕生日は、自分自身が認められているということ。この世に生まれたことをみんなが喜んでくれていると感じる。自分がこの場に、この家庭に居て良いんだという居場所を感じる事が出来る。つきつめれば、自分の存在意義、自分自身が大切な存在である、自分はみんなに大事にされている。等の自尊感情をたくさん感じることが出来る特別な日です。子どもは、自分の存在などということは言いませんが、それにつながる感情を心の中で、全身で感じていると考えています。だからこそ素敵な笑顔を見せてくれます。

## ＜大切にしたい考え方＞

- 子どもの主体性を高める  
幼児教育
- 興味関心を大きくする環  
境構成
- 生活の場としての園生活

# ひまわり5

## 元気な子どもたちとともに

### ＜教育・保育目標＞

## 元気で思いやりのある ひまわりっ子

## ＜職員目標＞

- チームワーク
- 主体性を育む保  
育
- 資質向上

園としても誕生日は、特別な日として大切にしています。事前に子どもたちの把握をし、その時に合った出し物を工夫し、園みんなで祝いの気持ちが伝わるようにしています。また、家族との絆も感じられるような場面も設定し、世界中が「あなたの誕生日を祝っている」ぐらいの勢いで誕生日を行っています。



お友達の誕生日を祝う側の子どもたちも、笑顔で見守ってくれています。みんなで歌う「ハピバステーツーユー」の歌声は、とっても温かさを感じ嬉しさに溢れています。友達を祝うことで、一人ひとりが大切な存在だということを感じてくれ、自分自身もその一人であることを感じるのだと思います。



子ども達に自己肯定感を育てたいと、これまでも伝えてきましたが、誕生日はとてもいい機会です。でも、普段の生活でも感じられます。「今日は何をしたの」「お母さんが見ているからね」「お父さんと絵本読もうか」等々、言葉に出して伝えること、及び大人の優しいまなざしが、子どもは愛情を感じ、自分は家族に見守られている、大事にされているなど、自分の存在を肯定する感情を心にいっぱい溜める事が出来ると思います。その力が、大人になった時の自分を伸ばす力になります。